**第5回　泉佐野丘陵地緑地 運営審議会**

日時：平成28年2月1日（月）15:00～17:00

場所：泉佐野丘陵緑地パークセンター

出席委員（敬称略）

大阪府立大学大学院　生命環境科学研究科　教授　増田昇（会長）

大阪府立大学大学院　生命環境科学研究科　教授　下村泰彦

うみべの森を育てる会　代表　西台幸子

大阪ガス株式会社　　特任研究員　弘本由香里

元大阪府立大学大学院　教授　前中久行

大輪会事務局　大西　弘薫

大阪市立大学大学院環境都市工学科准教授　嘉名光市

泉佐野市都市整備部　部長　真瀬三智広

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　代表　松井弘

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　事務局長　大家清信

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　副代表　山本喬

◆傍聴者　1名

◆概要

1. 現地確認（棚田跡地、向井池周遊路、向井池北側エリア） 14:00～

2. 協議案件 7件　 15:15〜

 　　①持込み型プログラムについて

　　②向井池東側エリアについて

　　③向井池北側エリアの修景について

　　④公園の評価について

　　⑤平成28年度運営審議会開催計画について

　　⑥平成28年度工事計画について

　　⑦平成28年年度パーククラブ活動計画について

3. 報告案件　3件　　 15:50〜16:50

①プログラム報告

　　②企業の森活動について

　　③平成27年度工事について

4. 閉会　　　　　　17：00

＜**協議案件1：持込み型プログラムについて**＞

事務局より持込み型プログラムについて説明。

・郷の棚田プログラムについて。例えば棚田全ての面に対して応募が埋まらなかった場合には、コスモス畑にするなど戦略的な活用方法を検討するとよい。

＜**協議案件2：向井池東側エリアについて**＞

事務局より向井池東側エリアについて説明。

・大阪工業技術専門学校（OCT）の作品は、木製のため初めは見栄えがよいが、風化すると目立たなくなる。森の中から垣間見えるような場所に設置する作品は、カラーリングするとよいかもしれない。その場合はワークショップ等で、作成してくださったOCTの生徒にも参加してもらい、カラーリングを楽しむイベントを行ってもよい。作品がむき出しになる場合は、カラーリングしなくても構わない。

・向井池東側整備の第一歩として、様々なポイントから眺望できるスポットCの整備から始めるとよい。スポットCの整備を通じて、スポットを整備するノウハウを蓄積するとよい。

・スポットCの整備と同時に、山側にあるコジイをシンボルツリーとして周辺を整備するとよい。このエリアは企業の森活動の予定地だが、シンボルツリーは活動の目標となるだろう。

・コジイは、対岸から見た時に見えるのか見えないのか、確認しておくべきである。むき出しにならないよう、参加者同士が話し合いながら整備を進めるとよい。

・企業の森活動を進めていく上で、どのようなお膳立てをしていくとよいのか、パーククラブとも相談しながら検討するとよい。レクリエーションのような内容も含めて、進行方法について作戦を練り、大輪会とパーククラブ、大阪府が三者で進めるシナリオを検討するとよい。

・スポットCと対岸とのやりとりをする際には、無線を活用すると楽しくなるかもしれない。

＜**協議案件3：向井池北側エリアの修景について**＞

事務局より向井池北側エリアの修景について説明。

・様々な場所からドングリを移植するとなると、様々なドングリが混ざることを避けることはできない。「ドングリの森」はそのような森でよいと、あらかじめ確認しておく必要がある。

・子ども達に持ち帰ってもらう苗は、均一してコナラにするという方法もある。または学校ごとで種類を分け、種類ごとにゾーンを設けて植樹すると、ある程度の樹林層を作ることができるかもしれない。混在させる場合も、実生の種類をある程度見分けながら植える方法もある。ドングリを集めてドングリバンクのようなものを作り、それをもう一度配布するというようなシステムも考えられる。

・3ヶ月に1回ほど写真を撮ってホームページに掲載し、植えに来たご家庭が様子を見ることができるようにしておけば、管理側の負担も少ないかもしれない。

・1度に全域を植えるのではなく、5年間程度の期間に毎年少しずつ植えていくような、「つくり続ける」という要素もあるとよい。

＜**協議案件4：公園の評価について**＞

事務局より公園の評価について説明。

・景観と環境というよりは、大きくは施設管理と植物管理に分かれるだろう。例えばササユリ管理の目標や植物管理の方法などを示しておくとよいかもしれない。

・12月よりコミュニティバスを日曜日のみ運行しているが、現在の実績は約700名弱であり、数字としてはもっと伸ばさなければならない。

・開園後も少しずつつくり続けていることを実績として整理していくことも重要であるが、どのような層の人に広報が届いていないのかを理解することも重要である。

＜**協議案件5：平成28年度運営審議会開催計画について**＞

事務局より平成28年度運営審議会開催計画について説明。

・東地区では、最初に希少種の有無を調査する必要がある。専門家に調査を依頼していただきたい。また人間生活との関わりの中で発生した植生の有無も調査していただきたい。

・東地区を整備する体制も検討する必要がある。様々な可能性を考えることができるので、審議会で議論を進めていきたい。

・花を育てるプログラムも含めて、パークレンジャー養成講座の新しい形を考えることができるならば、提案を作成した上で次回の審議会で議論することができるとよい。

＜**協議案件6：平成28年度工事計画について**＞

事務局より平成28年度工事計画について説明。

・落石対策について、落石防止ネットを張りめぐらせるような大掛かりな工事ではなく、減災の視点で、事故が起こらない対策を検討するとよい。

・向井池北側エリアの工事に関して、樹木については長期的な視点を持ちながら進めていただきたい。樹木は大きく成長すればよいというわけではなく、根上りなどを確認しながら工事を進めるべきである。

＜**協議案件7：パーククラブ活動計画について**＞

大家委員より平成28年度パーククラブ活動計画について説明。

・天神川については、ヒメボタルとゲンジボタルがいると聞いており、陸生と水生の両方を調べる必要がある。

・1年分の細かな活動計画が立てられているが、多少の振れ幅を持ちながら活動するとよい。

＜**報告案件1：プログラム活動報告（11月～12月）**＞

パーククラブおよび事務局より11～12月に行われたプログラムについて報告。

・公園で昆虫や野鳥、子どもが遊ぶ様子などの写真コンクールを行うとよいかもしれない。

＜**報告案件２：企業の森について＞**

事務局より企業の森について報告。

・現地体験会のしめ縄づくり体験に参加した参加者は、次回の活動参加にも意欲的である。今後は他の部署にも参加していただくほか、他企業にも参加を募っていきたいと考えている。

＜**報告案件３：平成27年度工事について＞**

事務局より平成27年度工事について報告。

・水辺のデッキは基本的に自由な利用を想定しているが、デッキを活用したプログラムも検討していく必要がある。ボートを使って向井池を観察するプログラムなども考えられる。

以上